

# 森林レンジャーがゆく

猫をかぶっている

(79)



私が学生のころ、スペインの実家の大きなテラスで、父が多くの植物を育てていました。そこには、たくさんの昆虫や鳥類が集まり、乾燥した時季でもにぎやかで、小さなオアシスになっていました。また、実家はマンションの最上階だったので、屋根を隠れ家に使っていた昆虫の名ハンターであるヤモリの群も暮らしていました。ときには、チョウゲンボウなどの猛禽類が小鳥を捕食していました。食物連鎖は完璧にできあがっていたと思います。私は、観察することが好きで、2年にわたるヤモリの個体識別調査などをやりました。

ある日、マンションで飼っていた猫が昆虫やヤモリ、小鳥などを狩り始めました。その後、バランスがとれていた生態系は、あっという間に崩れてしまいました。元々は人工的な環境なので、それほどひどい話ではないかもしれませんが、もしこれが地上だったら、周りの自然に余計な影響を与えていた可能性がある、そのとき初めて気付きました。大好きな可愛い猫を悪者にしたくなかったので、ペットである限り、極力外に出さないようにしました。

その後、幼いころによく見かけていたカナヘビやカエルなどが市街地の公園や緑地などから除々に姿を消していきました。一方で野良猫や野良犬（飼い主のいない猫や



餌付け場には伝染病拡大の危険性があります

犬)は増加していました。自分の経験から、この二つの変化には関係性があると思っていましたが、当時、自然の味方になる人が圧倒的に少なかったため、その問題は続いていきました。同時に、人間や家畜などに野良猫や野良犬の影響が広がり、大きな問題になったことも記憶にあります。

大人になった今でも、母国スペインや住んでいる日本で野良猫などに餌を与える例をよく見かけます。かわいそうだからと餌を与える人がいると思いますが、餌を与えるだけでは、野良猫が繁殖し続け、人や自然への影響も起こります。世話をするのであれば、家の中で飼うなど適正な管理が必要なのではないでしょうか。人間の勝手なエゴは、様々な社会や環境問題の大きな原因となります。私たちの日常の行動が周りにどんな影響を与えているのか、考えてみる必要はありませんか。（パブロ）